

相愛大学研究シーズ集

シーズ名	保育者が意識する幼児教育における深い学びとは～深い学びと捉えた事例分析
所 属	人間発達学部 子ども発達学科
氏 名	中井清津子
<p>【概要】</p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月改正)において「主体的・対話的で深い学び」が実現することが求められている。特に「深い学び」については、それを具体的に捉えることが難しいと考えられる。そこで、幼児期に求められる「学びの質」について具体性と視点を明確に求めるものである。具体的に5歳児の担任から「深く学んだと感じた事例」を分析し、カテゴリー名を抽出した。保育者が捉えた「深く学んだ内容」のカテゴリーを子どもの姿から捉えたものである。</p> <p>★思考錯誤する ★ 課題解決する ★仲間と伝え合う ★振り返る ★関連付ける</p> <p>さらに「深い学びを成立させる要素」をとらえた。まだこれから深めるところではあるが、今の段階で次のことが言える。</p> <p>○仲間と共に継続的に取り組む。 ○試しながら新しい方法を発見する ○自分のやり方を振り返ったり問いかける ○新たな方法を、より確かなものにする ○先行経験を関連づけながら、自分の思いを実現する</p> <p>※学びの過程を意識することが「深い学び」として重要な要素。保育過程の質的要素を明らかにしたい。 ※知識や技能を相互に関連付けたり、組み合わせられたりする過程の大切さを意識すること。</p>	
キーワード	深い学び 学びの質 学びの過程 保育過程の質的要素